

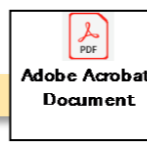
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
単元名	くらべたことがあるかな、 おおいはどちらかな	1 → 0	なんばんめ	2 → 2	のこりはいくつ ちがいはいくつ	9 → 8	どちらがながい	5 → 5	なんじ なんじはん	1 → 1	かたちあそび	4 → 4	ひきざん	10 → 9	けいさんの ピラミッド	2 → 2	どちらがひろい	1 → 1	かたちづくり	5 → 5	
	なかまづくりとかず	14 → 14	どのように かわるかな	1 → 1			わかりやすく せいりしよう	2 → 2	3つのかずの けいさん	3 → 3			どんなけいさんに なるのかな?	2 → 2	おおいきい かず	14 → 12	なんじなんぶん	2 → 2	1ねんのふくしゅう	3 → 0	
			あわせていくつ ふえるといくつ	8 → 7			10より おおいきい かず	9 → 9	どちらがおおい	4 → 4								ビルをつくろう	1 → 1		
									たしざん	10 → 9								たしざんとひきざん	5 → 5		→
時数減 の方向性	【おおいはどちらかな】幼児期での数や量への経験を話し合う最初の問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【しあげよう】数の構成や数を数える終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。 【あわせていくつ ふえるといくつ】学習内容の定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【のこりはいくつ ちがいはいくつ】学習内容の定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【たしざん】学習内容の定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【ひきざん】学習内容の定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【おおいきい かず】単元の学習を日常生活に活用する終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【1ねんのふくしゅう】1年の学習内容について、既習内容の理解を確認する問題を、家庭学習との連携を図り削減。								



カリマネ要領へGO!



評価規準へGO!



単元情報	単元名									
	おおいはどちらかな	なんばんめ	のこりはいくつ ちがいはいくつ	どちらがながい	たしざん	かたちあそび	ひきざん	おおいきい かず	たしざんとひきざん	かたちづくり
ゴールの姿	・多いものを比べるには、いろいろな方法で比べられるんだね。	・数字は、ものの合計がわかるだけでなく、順番もわかるって便利だね。 ・自分の背の高さも、番号を使えば前から何番目がすぐわかるね。 ・座席の場所は、上下、左右、前後などを使うと、詳しく説明することができるね。	・残りや、違いを表す場面も、ブロックを使うとどちらも同じ操作をしていることがわかったよ。 ・たし算と同じで、式にするとどんな場面を表しているのかわかるね。	・重ねて比べられない時でも、他のものを使うと、いくつ分かで長さがくらべられて便利だね。 ・長さも数を使うと、どちらが長い数字でくらべられるので、便利だね。	・いろいろな計算の方法があるけど、どれも10のまとまりを作っているんだね。 ・10より大きな数になっても、たし算が使えるようになったよ。	・タワーを作るためには、高く積みあげることが必要だから、平らな形を使うと積み上げられることがわかったよ。 ・筒の形は、縦にすると積めるけど、横にすると転がりやすいことを発見したよ。	・12-7の場合は、10のまとまりから取っていく方法と、端から取っていく方法があるんだね。 ・新しい問題でも、ブロックや図を使って考えると、答えがわかるね。 ・たし算の考えを使うと、ひき算の計算も求めることができ便利だね。	・10のまとまりを作ることで、10までしか数えなくてすむので、数え間違いが少なくなるよ。 ・10が10個あつると、これまでの学習と同じように、一つ数の部屋が大きくなるよ。	・図を用いると、違いを表すひき算と同じ図になったので、場面が違ってもひき算だと考えることができるね。 ・普段の生活の中に、たし算やひき算の場面がたくさんあることがわかったよ。 たし算やひき算を生活の中でたくさん使っていきたいです。	・三角2枚で、四角が作れるよ。三角が4枚で、大きな四角が作れるよ。 ・金魚をよく見ると、四角と三角を組み合わせた形を見つけることができるよ。 ・▲は、枚数を増やして同じ形をつくることができるよ。
備考	操作、言葉、絵や図、式などが関連付けられることが大切である。算数の素地をつくるこの時期だからこそ、多くの表現方法を体験する必要がある。	順序数と集合数を区別する行為は、最後に唱えた数によって表されるので、難しい。そこで、体験的活動や作業的な活動を通して、概念の理解を深めていく。	求残、求差などの具体的な問題場面を、ブロックなどの操作を通して、いずれも同じ操作になることから減法が用いられると統合的に捉えられるようにすることが大切である。	量の学習のスタートとなる「長さ」という量を扱う。長さを比べるという具体的な操作活動を通して、測定の基礎となる考え方や概念を養う。ここでの学習を、「ひろさ」「かさ」の学習に繋げていく。	学習した「10が幾つ」や「10とあと幾つ」という数の見方などを働かせて、操作や図を用いて、考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じられるような展開にする。	幼児期の積み木や箱などを積んだり並べたりした経験と算数の学習を繋げていくことが大切である。第1学年では、箱の形状を捉えるだけでなく、機能的な性質についても指導をする。	新たな計算に出合ったときには、既習の方法で求めることができるように、数の見方を工夫して解決しようしたり、互いの考えを理解しようしたりする態度を養うことが肝要である。	これまでの学習をもとに、十進位取り記数法のよさを実感することでもっと大きな数についても表してみたいと発展的に考えたり、その後の四則計算の仕方を考える基礎に繋がる。	加法や減法が用いられる場面では、具体物や図を用いて表し、そのよさを実感することを通して、数量の関係を捉え、児童がどの場合も、判断できるようにすることが大切である。	形づくりでは、図形を合成・分解する活動を通して、平行、回転、対称移動の操作方法に気付くようにする。辺や頂点を意識して説明を行うようにし、今後の図形の学習に繋げる。
ゴールの姿	・数字をつかうと、ものの合計が目目わかって便利だね。 ・数は、2つの数でも表すことができるから、もっと大きな数でもやってみたいなあ。 ・教室の中にあるものも、数で表すことができおもしろかった。	・あわせると場面と、ふえる場面を振り返ってみると、どちらもブロックがくっついているところが同じなんだね。 ・もっと大きな数になっても、たし算がつかえるのかなあ。 ・式にするとどんな場面を表しているのかわかるね。		・数が大きくなった場合には、10のまとまりを作ると数えやすくなるよ。 ・10のまとまりとばらばらいくつあるかわかれば、数が大きくなっても数字で表すことができ便利だね。						
備考	1対1対応させる考え方は、減法での差を求める考え方につながっている。	演算決定をする場面では、「あわせて」「ふえると」などのキーワードで形式的に判断するのではなく、問題場面を操作と対応させながら、たし算のイメージをつかむことが大切である。		40までの数について、10のまとまりや数の構成に着目し、数の読み方、書き方、計算の仕方を考え、表現することが重要である。ここで得た見方・考え方が、数の範囲が広がった場合にも生かされていく。						